

《担当者名》永見慎輔 nagami@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

知覚，言語，態度などに関する諸機能を計量的に評価するために必要となる方法を講義を通じて身につける。

【学修目標】

「一般目標」：認知・言語・社会行動の数量化に関する基礎的方法を身につける。

「行動目標」：

1. 精神物理学の測定法の種類と誤差について説明できる。
2. 尺度水準と、種々の尺度構成法について説明できる。
3. 測定の信頼性と妥当性、標準化について説明できる。
4. 観察法、質問紙法、実験法の概要を説明できる。
5. 研究の種類と、データ解析について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	心理測定法とは	他科目との関連性を理解する。 尺度水準について理解する。	永見慎輔
2	精神物理学の測定法	種々の測定法と誤差について理解する。 (調整法・極限法・恒常法・ME法など)	永見慎輔
3	精神物理学の測定法	誤差について理解する。	永見慎輔
4	幾何学的錯視の測定	体験を通して測定法を理解する。 (ミュラーリヤー錯視)	永見慎輔
5	尺度水準	様々な尺度の作成法を理解する。 (評定法・順位法・対比較法・SD法など)	永見慎輔
6	信頼性と妥当性	信頼性と妥当性、その検証法について知る。	永見慎輔
7	尺度構成法の基礎と応用	測定ツールの開発原理、尺度の活用法を理解する。	永見慎輔
8	質問紙法と因子分析	質問紙法の概要を知る。因子分析を理解する。	永見慎輔
9	サンプリング	適切なサンプル抽出による対象集団の正確な反映を理解する。	永見慎輔
10	記述統計と推測統計	「データの要約と整理」に焦点を当てる。また、 「サンプルから母集団への一般化」について理解する。	永見慎輔
11	検定	研究の進め方とデータ解析について知る。	永見慎輔
12	まとめ	小テストと、その解説を通じて内容の定着を図る。	永見慎輔

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト・レポート課題（30％）と、定期試験（70％）を総合して評価を行う。

【教科書】

山田弘幸 著 「言語聴覚士のための心理学 第2版」 医歯薬出版 2020年

【参考書】

市川伸一 編著 「心理測定法への招待 測定からみた心理学入門」 サイエンス社 1991年
 高野陽太郎 編著 「心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし」 有斐閣 2004年
 中沢 潤 他 著 「心理学マニュアル 観察法」 北大路書房 1997年
 鎌原雅彦 他 著 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 1998年
 保坂 享 他 著 「心理学マニュアル 面接法」 北大路書房 2000年
 山田剛史 他 著 「よくわかる心理統計」 ミネルヴァ書房 2004年

【備考】

授業資料の配布はGoogle Classroomを利用する。講義の一部でGoogle Formを活用する。利用方法は講義内で説明する。

【学修の準備】

予習は講義前「授業内容及び学修課題」にある内容を調べて、予習に努める（80分）。

復習は配付資料、授業で解説した内容をまとめ、自身のことばで説明できるようにする（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

永見慎輔（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

言語聴覚療法に関わる研究を介して心理測定の実務経験がある。